八千代の梨産地を次世代へつなぐ

～後継者と女性農業者の育成～

１　活動のねらい

JA 八千代市と連携して梨を栽培する若手農業者の資質向上のために、研究部活動等の支援と女性農業者の経営参画に向けた知識や技術の習得を目的として、産地の維持に向けて取り組みました。

２　課題の背景

八千代市では、北部を中心に梨が栽培されており、生産者が個々の直売所で販売しています。近年は、経営の代替わりが進んでおり、今後経営の安定に向けて経営主となる若手農業者の育成が急がれます。

将来、八千代市の梨生産を担う 20～40 代の若手農業者で構成される八千代市梨業組合研究部は、現在 19 名で活動しています。活動内容は、身体的負担軽減につながる省力樹形導入や消費者ニーズに対応した良食味の新品種導入、その他作業負担軽減につながる器具や機械導入、販売果実の品質向上の検討をしており、栽培技術習得や品種導入等に向けた支援が必要となっています。

また、個々の経営体で経営力強化のために経営感覚に優れ、栽培管理全般もできる女性農業者の育成が望まれています。

３　普及活動の経過・結果

（１）後継者を対象とした活動

ア　省力樹形の優良事例・大苗育苗施設の視察

令和３年６月に栽培管理の身体的負担軽減につながる技術として省力樹形の一つであるジョイント樹形の優良事例とジョイント樹形導入に伴い、必要となる大苗（２年生以上の苗）の育成方法及び育苗施設の建設方法を学ぶため、先進地である白井市を視察しました。

写真１　ジョイント樹形を視察する様子

八千代市では、研究部内の有志で大苗育苗のための施設建設を検討する動きがあり、今回視察時に、建設予定施設の設計図を視察先の生産者に確認してもらい、助言を受けました。

また、令和３年１２月に収穫やせん定の省力化及び早期収量確保につながる２本主枝樹形の優良事例を視察し、着果管理や夏期管理方法を学

びました。２本主枝樹形は、ジョイント樹形と比較すると、定植後に接ぐ必要がないため、取組みやすく八千代市内でも栽培面積が増えています。

イ　晩生品種比較検討会

八千代市では、ほとんどの梨栽培者が個々に所有する直売所で梨の販売を行っていることから、市場出荷の産地とは異なり、消費者ニーズに応じた多様な品種が店頭に並びます。近年は晩生の梨でも、良食味品種が増えており、有望品種である農研機構の「甘太」と千葉県育成で約 20 年ぶりにデビューとなった「秋満月（あきみつき）」の外観・食味の検討を行いました。

秋満月については、昨年度末にも果樹研究室と連携して栽培講習会を行い、生産者へ品種特性等の理解を促しています。

（２）女性農業者を対象とした活動

ア　基礎技術講習会

摘心（５月）、枝抜き（11 月）、せん定（12 月～２月、３回）について、講習会を行いました。有志メンバーの一部はすでに経営主とともにせん定を中心とした栽培管理を行っているため、梨栽培の経験が浅いメンバーに対し、教える段階まで進んでいます。

イ　直売所における販売管理の優良事例視察

直売所における販売管理は女性が中心となって運営しているケースが多いことから、作業負担軽減に向けて同地域の優良事例を視察し、顧客管理や伝票の管理方法、PR 資材作成方法等を学びました。

今回の視察を受けて、出席した女性農業者の一人は伝票の管理方法を見直したことで、発送漏れのミスが無くなりました。

写真２　販売管理の優良事例を視察する女性農業者

４　今後の課題

若手農業者は園地貸借により、栽培面積が増加傾向にあることから、家族経営で続けていくには、ジョイント栽培や２本主枝栽培といった省力樹形の導入や出荷調製作業の省力化（選果機の導入等）が求められており、それに向けた現地指導と情報提供を引き続き行っていきます。

女性農業者については、毎年度意向を確認しながら、関心が高い分野の講習や視察を行い、技術のステップアップを図ります。

５　担当者　　八千代グループ　田中　稔久

６　協力機関　ＪＡ八千代市